

## 2022 年度中京大学入学式式辞

中京大学の学部並びに大学院研究科にご入学された 3528 名の皆さん、本日は誠にめでたうございます。皆さんを心より歓迎いたします。新入生を今日まで育て、支えてこられたご家族の皆様には、謹んでお慶びを申し上げます。

今日から皆さんの学びの場となる中京大学は、名古屋と豊田の二つのキャンパスに 10 学部と 9 つの大学院研究科を擁する総合大学です。多岐にわたる学問領域をカバーしており、全国から約 1 万 2000 名という多数の学生が集まっています。これまで育ってきた環境、考え方や個性は一人ずつ異なります。皆さんは是非、これからの学生生活で、勉学、スポーツ、クラブやサークル活動を通じて多くの友人と出会い、互いに刺激し合って自分を磨き上げていってください。幅広い分野の書物に接して、視野を広げていってください。中京大学を自らの成長と飛躍のための舞台と考え、ここから将来に向けて大きく羽ばたいていってくださることを期待します。

中京大学の歴史は、今から 99 年前の 1923 年（大正 12 年）に設立された中京商業学校にさかのぼります。現在の中京大学附属中京高等学校にあたります。創立者である梅村清光先生が掲げた教育理念は、現在も校訓として受け継いでいる「真剣味」です。真剣味の「真」は真実、真理を探究する知育を意味します。「剣」は剣道や剣術、つまり体育です。「味」は人間味、すなわち徳育にあたります。「真剣味」は知、体、徳の三つを兼ね備えた人材の育成を掲げているのです。

戦後の 1954 年（昭和 29 年）に中京短期大学が開設され、その 2 年後に四年制の中京大学となりました。初代学長の梅村清明先生は、「真剣味」の思想をさらに具体化して、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」という建学の精神を示しました。建学の精神では、「一、ルールを守る 二、ベストを尽くす 三、チームワークをつくる 四、相手に敬意を持つ」という四大綱が掲げられています。この四大綱は、学術やスポーツのみに限らず、こういった場面でも、誰に対しても、さらに社会がこの先どう変化していこうとも、決しておろそかにしてはならない普遍的な理念ということが出来ます。皆さんは今後の人生において、この四大綱をぜひ大切にしていってほしいと思います。

さて、皆さんを取り巻く社会は今、まさに激変期にあります。最も気がかりなのはウクライナ情勢です。国際社会が厳しい視線を注ぐ中で緊張緩和に向けた動きが模索されているようではありますが、道のりはなお険しいと思われまます。何より、この一か月余りの間に、まったく罪のない大勢の子どもや民間人

が突然命を奪われたり、住む家をなくして隣国への避難を余儀なくされたりしたことに對し、強い憤りと悲しみを覚えずにはられません。

中京大学は先月、一刻も早い平和的解決への願いを込めたメッセージを、附属高校との連名でホームページに公表しました。本学のすべての学生や教職員が、人種や国籍にかかわらず、自由に、かつ安心して学業や研究に励んでいけるよう、全力でサポートする姿勢を明確に打ち出したものです。中京大学は、今後も学術とスポーツを通じて、平和な国際社会の実現に向けて貢献していきたいと考えています。

ウクライナ情勢の緊迫を受けて、世界にも大きな波紋が広がっています。石油や天然ガスなどの資源価格、小麦などの穀物価格には既に高騰しており、この先、私たちの家計に影響が広がってくるのは間違いありません。

ロシア市場やロシア関連ビジネスからは、撤退する企業が相次ぎました。ここまで加速する一方だった国際経済のボーダーレス化にも、一定のブレーキがかかったこととなります。グローバル化という大きな枠組み自体の揺り戻しにはつながらないにしても、こうした動きが日本および海外各国の経済や景気にもどのような影響を及ぼすのか。しばらくは慎重に見極めていく必要があるでしょう。

感染拡大が始まって2年が経過した新型コロナウイルスへの対応も、引き続き緩めることはできません。新しい生活が始まると、多くの人と出会い、時には開放的な気分になることもあろうかと思えます。そうした場面においても、マスクの着用や手洗い、密を避けるといった基本的な対策は決して怠らないようにお願いします。

高校までと比べ、大学での生活は、格段に自由度が増すこととなります。ただ、その自由はあくまで責任を伴うものです。加えてまさに今月から、民法の改正により、成人年齢が18歳に引き下げられたばかりです。大学としては無論、学内で感染が広がることのないように徹底した対策を講じていきますが、それを踏まえた上で、自らの健康と安全を守るのは最終的には自分自身なのだという点を、しっかりと頭に留め置いてほしいと思えます。

ウクライナ情勢や新型コロナ以外にも、今の社会には解決すべき課題が山積しています。SDGs（持続可能な開発目標）という言葉はすっかり定着しましたが、その中でも特に気候変動への取り組みは、早急かつ着実に成果を出していくことが必要です。少子高齢化が急速に進むわが国では、人口問題への対処の仕方も、将来の国のあり方を決める重要なカギとなります。歴史的にみても、極めて難しい舵取りを迫られているのが現在、2022年の日本ということができるでしょう。

では、そうした環境下で必要とされるのはどういった人材なのでしょう。歴史を知り、先人の知恵に学ぶ。その上で、既存の枠にとらわれずに大胆かつ柔軟に発想し、果敢に実行していく。私は、そうした若い力こそ、今の日本で切実に求められているものだと考えます。

中京大学は「自ら考え、行動することのできる、しなやかな知識人」の育成を目指しています。難局にもくじけず、柔軟で強いという「しなやかさ」は、まさに今、必要とされる資質なのではないでしょうか。

私たちの身近に、見事にそれを体現してくれた先輩たちがいます。それは、2月に開催された北京冬季オリンピックに出場した本学の在学学生や卒業生です。フィギュアスケートの宇野昌磨選手と、三浦璃来選手・木原龍一選手のりくりゅうペア、フリースタイルスキー男子モーグルの堀島行真選手はいずれも銅メダルに輝き、スピードスケート・ショートトラックの第一人者である吉永一貴選手らも素晴らしい健闘ぶりでした。フィギュアの選手らは、五輪後の世界選手権でもさらなる成長を見せてくれました。

大学は高校までとは異なり、自分自身がテーマを定め、行動していく場です。スポーツであれ学業であれ、意欲を持って主体的に挑戦し、自らの可能性を広げていってください。本学の教職員は、皆さんのチャレンジを全力で支援していきます。

なお、北京オリンピックと世界選手権に出場し、ともに銀メダルに輝いたフィギュアスケートの鍵山優真選手が、本日、皆さんと一緒に本学に入学しております。同期生として、これまで以上に熱い声援を送ってもらえれば大変嬉しく思います。

最後になりましたが、中京大学を運営する学校法人梅村学園は、来るべき来年、2023年に創立100周年を迎えます。中京大学は再来年の2024年に開学70周年を迎えます。本日、ここに参加されている入学生の皆さんは、在学中にその節目を迎えることになるわけです。その時は、ぜひ皆さんとともに、大いなる誇りと喜びを分かち合いたいと考えております。

皆さんのこれからの大学生活が実り多きものとなりますよう、あらためて心より祈念して、式辞とさせていただきます。

本日はご入学、誠におめでとうございます。

2022年4月5日

中京大学学長  
梅村 清英